

マーケットレポート

# 4月コア消費者物価は+3.5%の上昇

～コメ類は+98.4%に上昇～

## ◆生鮮食品を除く食料品とエネルギーが物価を押し上げ

23日発表の4月全国消費者物価指数(CPI)は、生鮮食品を除く総合指数(コアCPI)が前年同月比+3.5%(前月:+3.2%)に伸びは拡大、総合指数は同+3.6%(前月同じ)でした。

品目別では、生鮮食品を除く食料は同+7.0%(前月:+6.2%)と9カ月連続で伸びが加速しました。エネルギーは同+9.3%(前月:+6.6%)と大幅に伸びが拡大しました。政府の電気・ガス価格抑制策の補助金縮小による電気代、都市ガス代の上昇が影響しました。ガソリンも同+6.6%(前月:+6.0%)と伸びが拡大しました。個別項目では、コメ類が同+98.4%(前月:+92.1%)と、21カ月連続で伸びが加速しました。農林水産省が20日に発表した小売店や外食業への備蓄米の流通量は、3月に2回の入札で放出した備蓄米のうち1割程度、年間消費量では約0.3%にとどまっており、コメ価格の抑制には繋がっていないものとみられます。一方、4月から開始された高等学校(公立)の授業料無償化により消費者物価の上昇幅は▲0.16%縮小しました。

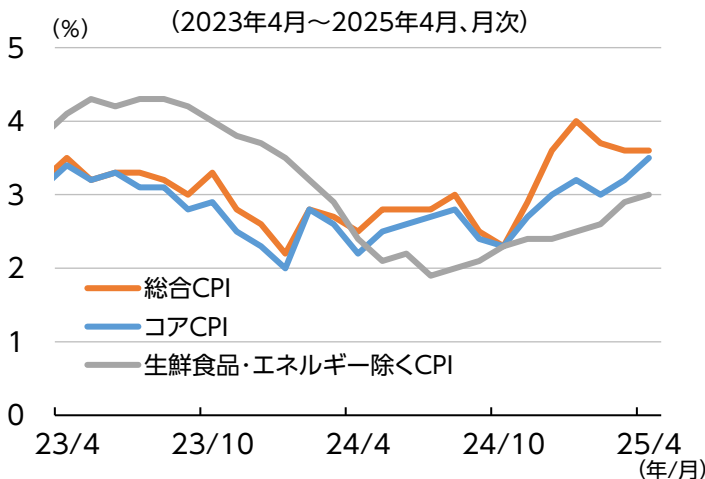
生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は同+3.0%(前月:+2.9%)と伸びが拡大しました。日銀が注目しているサービス価格は同+1.3%(前月:+1.4%)でした。財価格は同+5.6%で前月と伸びは同水準でした。

## ◆今後の見通し

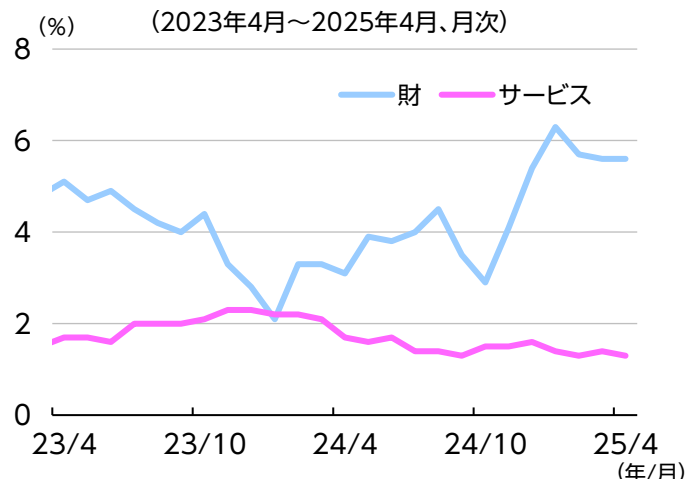
日銀は5月1日に公表した展望レポートで、米国の高関税政策の影響を踏まえて経済成長率と物価の見通しを引き下げました。基調的な物価上昇率が目標の2%に到達する時期を2025年度後半から2026年度後半に後ずれさせた形です。日銀は、「成長率が高まれば人手不足感が強まることで予想物価上昇率が上昇していく」としており、労働市場への注目も高まりそうです。また、政府は22日から新たなガソリンの補助金制度をスタートさせるほか、東京都では今夏の4カ月間、一般家庭の水道基本料金が無償化されるなど、政策による物価の動向にも関心が集まりそうです。

為替市場では、トランプ米大統領が相互関税を発表したことなどを受けて、年初に1ドル=157円台で推移していた米ドル/円は、現在は140円台前半で取引されています。輸入物価への影響を見通すためにも、今後も円高が継続するのかに注目が集まります。

CPIの推移(前年同月比)



CPI 財とサービスの推移(前年同月比)



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。